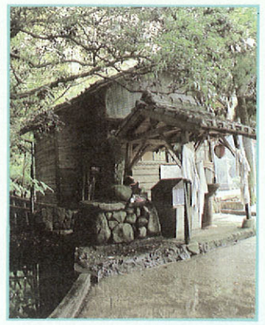
ふるさと紀行

自然と人々が調和する村「西原村」

村の〝お池さん〟

「我は池の神である。お前の多年の病気を治してやろう。池に参って、霊水を服用し、痛むところに塗るがよい。」お告げを受けた男の多年の難病が治ったのは、それから一ヵ月余りたった大正三年の夏。以来、霊水を求める人で賑わい、池の周辺には瞬く間に百五十戸もの宿屋や土産屋が並んだといいます。



揺ヶ池（ゆるぎがいけ）――通称お池さん。千九百年前九州熊襲征伐の際に、この地にお泊りになった景行天皇が「これは良い水」とお褒めになって以来、数々の伝説に包まれています。ここの水は、何ヵ月置いても腐ることがありません。村役場の水も数ヵ月前のお池さんの汲み置きの水です。どこか甘い感じのする不思議な水。大正期のあのフィーバーもわずか一年余りで終り、ひなびた感じもしますが、お池さんは今でも村の人々の厚い信仰の対象であり、生活の一部でもあるのです。

農業と工業の共存

西原村は人口約五千、全体の約七割が農家という典型的な農村です。さつまいもやタバコ、里芋、シイタケの栽培が盛んですが、さらに今年からは新しい農業のビジョンを検討。「何にもまして、農業を振興しよう」と村を挙げて、ユズや野菜など新しい作物の開発、園芸農業を積極的に進めています。

村の東南部、高畑山の麓には五百ヘクタールもの規模を誇る西原公共育成牧場が広がっています。村では、今、ここを新しい観光の拠点にしようと検討を進めています。

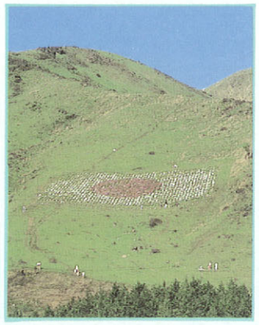
また、産業の活性化を図り雇用を促進するために、鳥子工業団地をはじめ県内外の企業数社が工場を設置しています。今、企業と村と地元の人々との話し合いが定期的に行われ、地元と企業とが一体となった地域振興に力を入れています。

このように、村では農・工がうまく共存していける体勢づくりを進めています。

ユニークな村づくり

「ナイスショット」

歓声が湧き上がります。「西原村おこしオープンゴルフ」県内各地から、約二百数十人を集めて、毎年十月下旬に村のゴルフ場で開かれます。今年で三回目というこの大会は、いまや村を挙げての一大イベントに成長しました。〝村おこし〟という名が示す通り、賞品は全て村の特産品。ちなみに62年の優勝者には、高遊窯のオリジナル・トロフィーと、なんと畑に植えられたままのさつまいも。いもだけでなくいも掘りの体験までプレゼントしようというユニークな試みです。また、数ヵ月後に宅配便で送られてくる参加お礼のメロンやトマト、特製牛乳などは、参加者から大好評。「どこに行けば買えるの？」など嬉しい問い合わせのハガキが返ってくることもしばしば。



とにかく「人を呼ぼう」と昭和60年から行われているゴルフ大会。当初の「百人も集まらないんじゃないだろうか」「平日貸し切りなんてやっぱり無理じゃなかろうか」という心配をヨソに二百人が集まり大成功を収めました。大会名に「村おこし」をどうしても入れたかったという村人の熱意とこだわりの中に、村を愛する彼らの心が象徴的に現われているようです。

他にも、俵山の斜面に作った天皇行幸記念の日の丸公園や東京での物産展、花いっぱい運動や缶拾いなどの地道な美化運動を通して、一生懸命自然を生かした独特の村づくりを行なっています。期待できますよ、今後の西原村!!